



原田牧場 Note

Page 20

春、標茶町タウンプロモーション計画の一環で町民インタビューを受けました。役場と提携してプロモーションを進めている雑誌編集者の方が来られ「町外に発信したい町の良いところ」「こうだったらもっといいなと思う仕組み」について話すチャンス을いただきました。



標茶町タウンプロモーション計画について

標茶町では、「標茶町」の知名度を上げ、人口減少に歯止めをかけることや関係人口等の創出を目的とし、標茶町をどのように宣伝をしていくことが良いか、その方針をまとめた「標茶町タウンプロモーション計画」を策定しました。タウンプロモーションを進めていくうえでは、標茶町に住む人が自分の町に誇りを持ち、その良さを町内外に伝えていくことで、効果が発揮されます。これから行政をはじめ、町内企業や町民、標茶町と関わる方々と連携し、取り組みを進めていきます。

■ タウンプロモーションとは？

地域の魅力を伝える広報・営業活動。地域の魅力を内外に発信し、その地域へヒト・モノ・カネを呼び込み地域経済を活性化することが活動として位置づけられています。

過疎化が進む田舎は移住者をどのようにして呼び込むか？＝町の良いところの掘り起こしが一番のテーマですが、町民インタビューが掲載されている役場だよりの最後のページの求人欄、何ヶ月も同じ求人が出ているのに驚愕です！という話から始めました。介護士、保育士、看護員、調理員、保健師、全部がずっと足りていない状況では、いくら町の良いところをアピールしても表向きだけのことになってしまう。外へのPRと同時に行政サービスの充実を目指して、全国への求人＋移住、快適な住まいのあっせんも含めた仕組みづくりを是非やってくださいとお願いしました。小規模ではありますが、我が家は従業員用のアパートを建て、道外から移住してくれる働き手を募集し、地域コミュニティへ参加してもらうまでの橋渡し役をやっているのを、

経験談をお伝えすることもできました。より誇れる町づくりに今全員で邁進しないと。なんとなく暮らしていけるし…では取り返しのつかないことになるなと実感する機会でした。

そんなことで我が家の働き手は、移住を兼ねた方に限っていきたいと思いつつ、捨ててはいけないもう一本の柱があります。シニアの雇用です。先日60代半ばの搾乳パートさんが肩を壊し2ヶ月の療養となりました。長らく使った肩の老化、この先はいたわりながらやるしかないとの診断です。今年から年金はもらえるようになったけど、物価、燃料高、通院もあり年金だけでは暮らせないという事情があります。仕事量を少し減らす対応で、4年前にやめた70代のパートさんに久しぶりに連絡を取り、無理を言って来てもらい、搾乳人数を増やして、ゆったり目に作業が進むようにしました。着替えスペースには簡易椅子と手すりを備え付けました。すると70代のパートさんが、久しぶりだったけどやってみたら体も動くし、しばらく続けてもいいか？と言うので事情を聞くと、年金で暮らしていけると思って辞めたんだけど、目の病気が見つかり保険外の注射が高額でやっていけなくて、と。身につまされる思いがしました。搾乳は楽な仕事ではない、それでも汗だくになって作業してくださるのがありがたく、こちらこそお願いします！と返答しました。暮らせる分、と思うと時給は高めになるし、労働力の「力」部分では若い人に劣る部分もあるけれど、技術力は衰え知らずです。乳房炎の発見が早い、乳頭の拭き取り作業が上手いので乳質がさらに良くなったことが乳成分の数値に表れました。作業スピードがゆっくりというのも牛には喜ばれます。（牛は素早い動きに敏感で驚きやすい）コスパ、効率のような尺度では測れないものがあるということ、基幹産業である酪農を介したお互いの助け合いが地域貢献しているという意味合いの雇用、続けていこうと思います。

最後に、4年前にやめた70代のパートさんに声をかけた理由ですが、辞める時に一言残して行かれたからです。「希ちゃん、本当に本当に困った時は言っておいで。どうしてもものときは手伝いに来るから！」残してくれた優しさに励まされて、何かあった時でも頼れる人がいる安心感でやってこれたと思います。真に受けて連絡してくるとは思っていなかったでしょうがね（笑）

肩を壊したパートさんも復帰してみたら仲間が戻ってきてた！と嬉しそうに仕事をされています。その相乗効果か？皆さん以前より動きが良いのです。夏から秋は福利厚生で父さん母さんが作った無農薬野菜の配布をしてはまた笑顔。環境が整った時の自然発生的な（無理のない）パワーアップを目の当たりにし、尊敬する人生の先輩方と、まだもう少し一緒に働けることに感謝、感謝です。



外からの目線を持ち合わせた雑誌編集者の方が、ひとグループ1時間ほどかけてインタビューし、短い文章ながら、町を良くするヒントが凝縮されたコーナーです。いろんな立場の町民が町への思いを語る、それ以外の方もコードを読み取ってアンケートフォームから意見を届けられる工夫があり、我が町ながら良い取り組みだと思います。

関心がある方は検索して見てください。
一広報しべちゃ2025年3月号よりー

筆者 原田 希

1973年 大阪府吹田市生まれ

2006年 酪農家との結婚を機に北海道標茶町へ

2017年 北海道農業士に認定

北海道指導農業士の夫とともに新規就農者の支援や

女性農業者向けの勉強会のお世話係を担当